

【66頁の追加資料】

中間時代とは：オリエント世界の時代背景からは、ヘレニズム・ローマ時代のユダヤ史と言える。それは、ヘレニズム時代の幕開けであり、シリアの支配とマカバイ戦争、ローマの支配、第一次・第二次ユダヤ戦争の時代である。この時代に書かれたのが、コヘレトの言葉、マカバイ記一、二、ダニエル書、ゼカリヤ書9-14章などである。

知恵とは：①旧約聖書における知恵と愚かさ：箴言 1.2-6 を参照。とにかく箴言によって知恵を習得する主目的は、知識の集積ではない、むしろ「正義と裁きと公平にめざめるため。」(箴言 1.3) である。つまり、賢明な行いという全人格的な美德を身に着けることである。

知恵の具体的内容は、箴言に格言としてまとめられている。また、知恵は決して世俗的なものではなく、神との関係において習得できるものである。

知恵は、主権者である神の業としての創造とも深く関わり合っている(同上 8.23-24 参照)。

また、知恵の対局は愚かさである。この愚かさは、姦淫(同上 5.3-6)、怠惰(同上 6.10-11)、多弁(同上 10.19)、などの行為に具体化される。

ヨブ記によれば、知恵は主権者である神と共にある(ヨブ記 12.13 参照)。

②新約聖書の知恵と愚かさ：知恵はよく愚かさと対比されている(マタイ 7.24-27 参照)。

また、知恵が二種類に分けられる場合が多い。例えば、ヤコブの手紙では「地上のもの」(ヤコブ 3.15)と「上から出た知恵」(同上 3.17)とが比較されている。パウロは、人間の知恵の致命的な限界として偶像崇拜の傾向を指摘している(ローマ 1.22-23 参照)。

③旧約聖書の智慧文学：箴言、コヘレトの言葉(伝道の書)、知恵の書、シラ書(集会の書)、ヨブ記、詩編 1,37,49,51,73,78,90 など。